



## 誌上再録 BCL先輩／後輩ビッグ対談 わたしの短波人生

先輩：林 義晃さん（さいたま市浦和区）

<http://www5a.biglobe.ne.jp/~BCLDX>

後輩：細谷 正夫さん（東京都東久留米市）

[http://blogs.yahoo.co.jp/swl\\_information](http://blogs.yahoo.co.jp/swl_information)

林さんは、HCJB 日本語放送をいつ頃からききはじめられたのですか。

1964年の日本語放送開始よりも前です。母親が私に高校進学祝いにラジオを買ってくれたのが1962年。それまで私は短波のことを知りませんでした。中波・短波の2バンドで説明書に短波で外国からの放送が入ってくると書いてあったのです。これは面白そうだったのでダイヤルをあわせはじめたのがそもそもの発端です。それが今もつづいているわけです。



そのラジオで最初にキャッチされた放送局はどこでしたか。

おなじみの笑いカワセミのインターバル・シグナルで始まるラジオ・オーストラリア国営放送でした。当時はデジタルではないので周波数が直読できずダイヤルをまわして局をさがしていました。ダイヤルにはメインとサブレットがあり、まずメインで周波数をあわせておいてサブレットでゆっくりとダイヤルをあわせるやり方で、よく聞こえる局をパイロットにして周波数を確かめていました。

短波放送というのは、近隣の国からだけではなく地球の裏側からの放送もきくことができるわけですが、林さんは、これまでにどのくらいの放送局を受信されていますか。

正確に数えたことはありませんが、私は珍局をねらうようなことはしないで、ダイヤルをぐるぐるまわして入ってきた局にレポートしてベリカード（受信確認書）をもらうというきき方でした。

そうですね。500～600枚ぐらいは手元にあると思います。

「ベリカードをみれば世界が見える」とよく言われますが、林さんが集められたベリカードのなかで印象に残っているのはどれでしょう。

日本では最近は見こえません、タヒチのカードは人魚の絵柄でした。スペインの内戦時代にスペイン共産党が地下放送したときのカードはピカソの絵でしたが、その放送局はもう存在していません。

珍しいカードは林さんのホームページでぜひ紹介してください。ところで、短波放送の傾向と将来をどのようにお考えでしょうか。インターネットとは対立でしょうか、それとも共存でしょうか。

確かに予算や財政面で短波放送は縮小傾向にあります。それは、基本的にインターネット放送は送信設備がいらず安上がりだからです。しかし、インターネット通信は必ず線を通さなければならないのでその線を遮断されたら終わりです。それに、インターネットの普及率の高い国とそうでない国もまだたくさんあります。その点、短波は国情に関係なく簡単に放送がとどきます。インターネットは今後ますますふえるとしても、簡単なラジオさえあれば、どこでも、いつでも、だれでもきかれるという短波放送という媒体はなくなってしまうでしょう。

私も情報収集にはインターネットを使いますが、番組はやはり雑音とフェイディングの中から浮かんでくる放送をきくのが楽しいので、やはり共存していくのではないかと感じています。最後にBCLの大先輩としてひとこと。

ラジオを聴くというのは、アマチュア無線とは違って免許がいらないので放送局側では実態がつかみにくくなっています。それだけに番組制作の面で聴取者をつかむ工夫と努力はしていただくとして、私たちに出来ることは、やはり、短波放送がどんなに魅力があり、面白く、役に立つかということインターネットなどを通じて伝えていくことであり、それが、結局はBCL後輩の育成に役立つことではないかと思っています。

(2008年9月13日に放送された番組を編集しました。)

H C J B 日本語

放送担当

在 主 尾 崎 一 夫

## H C J B 日本語放送 (オーストラリア送信)

放 送 日 時 : 毎週土曜日、日曜日  
日本時間 0730 - 0800 (2230 - 2300UTC)  
送信周波数 : 1 5 5 2 5 k H z ( 1 9 m b )  
受信報告書の宛先: 〒169-0073  
東京都新宿区百人町1-17-8  
淀橋教会内H C J B 係  
(※返信用に80円切手を2枚同封してください)